

令和7年度 東京都議会予算要望ヒアリング参加報告（概要）

- 1 日 時：令和6年8月29日（木） 15：15～16：55
- 2 会 場：都議会議事堂 第2会議室（自民）、談話室（公明）、第13委員会室（民主）
- 3 訪問先：都議会自由民主党、都議会公明党、都議会立憲民主党
- 4 参加者：梶山理事長、野口副理事長、横田幹事長、高橋事務局長、森職員

3 会派とも、各会派の都議代表あいさつ、梶山理事長挨拶、横田幹事長による要望書の概要説明、意見交換、要望書の手交の順に実施した。

都議会自由民主党＜2階第2会議室＞ 16時00分～16時20分

対応者：宇田川、鈴木、小宮、伊藤、田村議員他 22名

司 会：本橋たくみ都議 挨拶：小松大祐幹事長

質疑応答

（宇田川議員）「総合評価制度の拡充」の中で、現在価格競争が中心となっているとあるが、実例を後日共有いただきたい。

次に、総合管理案件について、財務局は分離分割発注で全く問題ないと回答しているが、ビル政連さんは分離分割発注に課題があるとのことですが、詳しく教えてほしい。

（横田幹事長）実例については後日ご報告します。総合管理では1社が行うのが一般的であるが、JV化にて対応したいという要望である。課題としては、人手不足の現状、案件受注後に契約不履行の可能性があることが分離分割発注の課題であると考えている。

（宇田川議員）財務局として問題なしと言っているが、問題なく受注している業者もいるという認識で問題ないか。

（横田幹事長）人材確保できている企業であれば可能である。現状、落札から履行開始まで1か月足らずのことが多く、受注後に人材確保するとなると期間が短く困難であり、入札参加できないケースもあることから要望している。

また、警備案件では現に豊洲や淀橋市場等複数の受注企業の辞退が発生していることから問題であると認識している。

（松田議員）熱中症対策については、厚生労働省が60歳以上の従事者に対して空調服の購入支援の補助金を出しているが、ご存じか。もしよければご活用ください。

（横田幹事長）補助金制度について情報のご提供ありがとうございます。工事では現場管理費に計上できるが、清掃では該当項目がないこともご理解いただきたい。



都議会公明党<2階談話室> 16時30分～16時55分

対応者：議員4名（小林、高倉、うすい、たかく 各議員）

司会：たかく議員 挨拶：小林政調会長代行

質疑応答

- (高倉議員) 総務省等からの通知があるにもかかわらず、労務単価の見直しがないケースはどのような場合があるのか。
- (横田幹事長) 東京都からは、複数年契約では契約期間中の賃金上昇分を見込んでいないはずだと言われるが、現在の上昇率では見込んだものを超えることもある。そのことから、スライド条項のような制度の導入を要望している。都ではないが、公契約条例を導入している区では条例に基づいて複数年契約の契約金額の変更が反映される区もある。
- (小林議員) 社会的責任調達指針について、負担感について簡略化はどのように出来ると思うか。
- (横田幹事長) 指針のチェックリストが急に出てきたという感覚と、その文言が難解で文言を調べるだけでかなりの時間を要してしまうので、わかりやすい文言にするだけでも負担感は軽くなると考えている。
- (小林議員) 項目内容の理解に時間がかかるということであると承知した。
- (うすい議員) 障害者雇用の危険な作業とはどのようなものか。
- (横田幹事長) 特別支援学校で教えているのは日常清掃であり、日常清掃であれば問題ないが、教育庁から発注されるのは定期清掃や特別清掃ばかりである。例えば、窓ガラス清掃、また定期清掃のワックス剥離作業では床が滑るので転倒リスクもかなり高くなるので危険である。
- (高倉議員) エコチューニングについて、新たな設備投資ではなく今ある設備にて削減できるというのは有用であると考えている。認定事業者は業界として活用しているのか。
- (横田幹事長) 環境省と全国協会が認定しており、業界としては推進していきたい。
- (梶山理事長) 東京協会と都知事とのヒアリングでも都知事の提唱するH T Tの「減らす」と合致しているため、知事にも直接要望を伝えている。



都議会立憲民主党< 5階 立憲民主党総会室> 15時15分～15時35分

対応者：議員 10名

司会：須山たかし議員 挨拶：竹井ようこ幹事長

質疑応答

- (竹井議員) 障害者雇用について、知的障害の方が中心であり、特別支援学校でもクリーニング訓練は行っていると思うが、現状の課題は何かあるか。
- (横田幹事長) 訓練は日常清掃が中心だが、発注される入札案件は定期清掃、特別清掃であり、入札に参加するにはハードルが高い。
- (中田議員) 人手不足の対策事例は何かあるか。
- (横田幹事長) 若手が来ないので外国人雇用や高齢者を雇用せざるを得ない状況である。
- (中田議員) 募集したら応募があるのは高齢者か
- (横田幹事長) ほとんどが高齢者で70代80代もいる。今は売り手市場であり応募があっても当日面接をキャンセルされるようなことも起きている。
- (竹井議員) 外国人雇用は進んでいるのか
- (梶山理事長) 全国協会の話になるが、当初はフィリピンやベトナムであったが、その後インドネシアやスリランカ等も含め、各国へのアプローチを進めている。外国人雇用への期待をしなければ人手不足解消は出来ないのではと考えており、技能実習生や特定技能へと拡大していつている。

